

「節目を尊ぶ、人生は旅」

# 松榮山報



令和三年  
春季例大祭  
参行

これからの祭典行事案内

## 夏越 大祓式 ご案内

ご参列ご自由です



日時／令和三年六月二十六日(土) 午後三時より  
令和三年六月三十日(水) 午後三時より  
場所／大分縣護國神社神門  
初穂料／お下がりをお受けになる方は一世帯三千元  
◎事前、当日とも社務所にて受け付けております

来し方の半年間に感謝を。これから半年間の安寧の願いと祈りを。

梅雨の季節。降る雨や樹雨(きさめ)が木々の葉の緑を一層際立たせます。六月、令和三年の一年間の折り返しが始まります。このお祭りが過ぎると蒸し暑さから本格的なジリジリとした暑さが増していき、体調管理に配慮し日々の暮らしにも心が落ち着かなくなります。

新型コロナウイルスは一向に収束の目処が立たず不安ばかりが募ります。昨年の夏越大祓式や冬至大祓式、年越大祓式には回を重ねることにご参列の方々が増えております。これもコロナ禍への大きな不安と、一日も早く穏やかな日常生活を取り戻せようとする切なる願いと祈りであると思えます。護國神社の大祓式は、夏越は茅草と涼やかな水を用いて祓いをいたし、冬至と師走は浄火でもって一年間の禍事を焼き祓う神業です。剣のような葉の茅草も水も、そして火も、いづれにも神様が宿り強いご神威で私たちをお守りください。

夏越大祓式、清らかな水にご自身の人形(ひとがた)を浮かべて茅の輪をくぐり、いよいよの除災招福が授かります。当日は大変込み合いますが、マスク着用、間隔をとるなど、ご協力のほどお願いいたします。



## みたままつり 献灯のお願い



昨年のみたままつりより御明し(みあかし)に込める思いがより強く、御明しの数が大変多くなってまいりました。それはひとえに御霊への慰霊と鎮魂はもとより、コロナウイルスが早期に収まるようとの願いが込められているからです。昨年よりご遺族以外の方々から「祈りの灯り」としての献灯がずいぶんと多くなりました。

護國神社の神様は神話に出ていらつしやる神々ではなく、人間として生まれて、崇高な志のもと祖国に命を捧げた先人の方々です。私たちにとって非常に身近な方々が神様となって護國神社に鎮まり日本や故郷、そしてここに生きる私たちを見守り、平和へと導いてくださっています。コロナ禍を体験している私たち。見えないながらも何かしらを感じる神様とはを、今改めて皆さんが思っている証の御明しになります。

みたままつりでご社頭を照らすさまざまな思いを込めた御明し。祈りを込めた御明しを灯しませんか。

「お申し込み」  
大分縣護國神社  
〒870-0925  
大分市牧一三七一  
電話／〇九七-五五八-一三〇九六(代)  
FAX／〇九七-五五八-一三〇九八  
振替／019504-18874  
◎振替用紙は神社社務所でも用意しております  
お申し込み締め切り／七月三十一日(日)

五月 月次祭 一日	五月 月次祭 一日	六月 月次祭 一日	六月 神梅取獲祭 中旬	夏越大祓式 二十六日・三十日	七月 月次祭 一日	八月 月次祭 一日	八月 みたままつり 十三日・十四日・十五日	八月 みたままつり平和祭 十五日	八月 人事往来 丸山 桃香 令和三年三月三十一日付を以って仕女を解く 佐竹 花実 令和三年四月一日付を以って仕女見習いを命す 眞藤 美月 令和三年四月三日を以って事務職を命す	五月 祭典行事案内 (ただし情勢により延期や中止となる場合があります)
-----------------	-----------------	-----------------	-------------------	-------------------	-----------------	-----------------	-----------------------------	------------------------	--	---



# 令和三年 春季例大祭を終えて



大分縣護國神社宮司  
八坂 秀史

昨年終戦七十五年の節目の年に当たりながらも世にはびこる悪疫や台風のため春秋二季の例大祭は何れも不規則な斎行と相成りました。それほどに今年の春の例大祭は従来通りと盛儀にとり行えるよう願っていましたが、世情を鑑みやむなく参列される人数の制限を設けた次第です。誠に申し訳なく、心苦しく思います。

どうか御霊がより安らかに穏やかにお鎮まりになりますよう常にも増して祈念申し上げます。さらにその御神威におすがりをしつゝお護りくださるようお願いしてまいります。

今年には特に桜の開花が早く進み境内の左近の桜も三月下旬には満開を迎えました。以前は春季例大祭の頃が満開の時期だったので、桜の季節の訪れを待つのが楽しみです。先月とある桜のもとに出向きました。山あいの畑の上、その大きな桜はかたわらのお墓をいだく様に枝が垂れ見事に花開いていました。墓碑銘には「戦死」と刻まれた御名前が二柱。合掌し後日神社の命日台帳を開くと、一柱は先の大戦開戦直後にもう一柱は終戦の直前に何れも南方で戦死されていました。御霊御自身はもとより当時のご遺族もその口惜しさと悲しみはいかばかりだったでしょう。国を挙げての戦いが始まった途端に、あとほんの少しでその戦争は終わつたのに、と。無念の思いをいたわり慰めるがごとく桜

の枝が墓石を優しく撫でるように揺れるのでした。ただこの二柱の御霊には命日祭のご参拝が途絶えています。玉の緒の果てたその日の命日祭にご遺族がお参りされ、一柱ずつ奏上される御霊のお名前をお聞きになれば追慕の念も新たになるのではと思案いたしました。何よりこの御霊たちもさぞご感応召されることと拝察いたします。

春秋二季の例大祭は県下から多数のご遺族ご来賓をお迎えいたし盛儀に慰霊顕彰申し上げる重儀の祭典です。毎日行う命日祭は本殿間近に参列いただき、雪洞の奥に御霊の在りし日のお姿を偲び、その御名前を一柱ずつ奏する懇ろなお祈りです。またまなごめの例大祭と命日祭、いずれも護國神社のものをなす大切な祭典です。これからは厳修して参りますと拝殿前を舞う桜花にその想いを重ねました。

御霊の安鎮とご遺族ご崇敬皆様方のご清福をお祈りいたし、春季例大祭斎了のご挨拶いたします。

# 令和三年四月九日 春季例大祭斎行

駆け抜けるように咲いて、そして散っていった今年の桜。まさに疾風のような桜でした。その潔さはさながら御霊の在りし日のようにも映りました。今年の散り際がことのほか寂しく感じたのは、先が見えないままのコロナ禍のなかで明け暮れている毎日のつらさにも呼応するかのようだったからでしょうか。

令和三年の春季例大祭、お陰さまをもちまして滞りなく執り行われました。献幣使として大分県神社庁神日出男庁長様をお迎えして、宮司以下祭員一同、謹んで春季例大祭のご奉仕のお務めをいたしました。神社役員並びに総代、ご来賓の方々による御神前での心のこもったご参拝、そして心ならずも今回も限られたご遺族のご参列を仰ぐことができました。

遠くテント席からのご参列、三密を避けるため等間隔に空席を設け、時世とは言いながらも賑わいの少ないご社頭。しかしご遺族の御霊たちへの篤いお心は変わりがないものと感じました。

そのような規模ながらも常と変わらない厳肅な式次第。そして本殿では肅々と執り行われていく祭典。不測の世の中にあつて、皆が安寧であるようにとあまねく御稜威をお示しになる御霊へ恭順の思いでご奉仕いたしました。早咲きだった今年の桜の花に代わり、当社の仕女四人による浦安の舞が御霊とご参列の皆様方をお慰めできたのではと思っております。

従前までの大きなお祭りの風景とはいささか異なる様子に、お鎮まりの四万四千四百五十八柱の御霊たちには、お寂しかったことと拝察しています。これまでご自分の肉親がテント席に座ってこちらを見ている。そう感じるだけでも御霊には十分なまなごめになつていたはず。探しても見当たらない寂しさは、まるで親にはぐれた幼子の悲しい思いと同じかと。肉体は消えたとは言え御霊として、此処に生きている私たちと何ら変わることはない心、気持ちがか在り続けているはず。その証として御霊が感応され、お喜びになっているだろうことが、祭典の間に花や鳥や蝶や

風に代わって、私たちのそば近くでさまざまな姿になつて何かを告げてくれます。

一年前の祭典は、例大祭が戦後も滞りなく斎行されるようになって以来、初めてご遺族や来賓の皆様にご参列をご遠慮いただきました。しかし、秋季例大祭では県内の各遺族会のご理解のもと、ご参列の人数を限らせていただく対策をとらせていただきました。少しづつではありましたが好転する気配を感じはじめ、お元気なお姿を拝し救われた思いがしました。それでも現況は誠に不本意なことには変わりありません。ご参列の方々への心苦しい制限を徐々に緩和させているとは言え、以前のよう盛大な祭典に戻るにはもうしばらく時間が必要であるかと実感しています。やるせない思いが募るばかりです。

今回も限られた方にご参列いただいた春季例大祭。地球規模で、致し方ないこのような状況下とは言え、まことに心苦しい限りの祭典でした。来年こそは、いや半年後の秋季例大祭こそは、どうかコロナウイルスが収束へと向かい、以前のようによくご参列を賜り、ご一同とともに御霊をお慰めできる日が早く訪れるようにと心から願っています。





